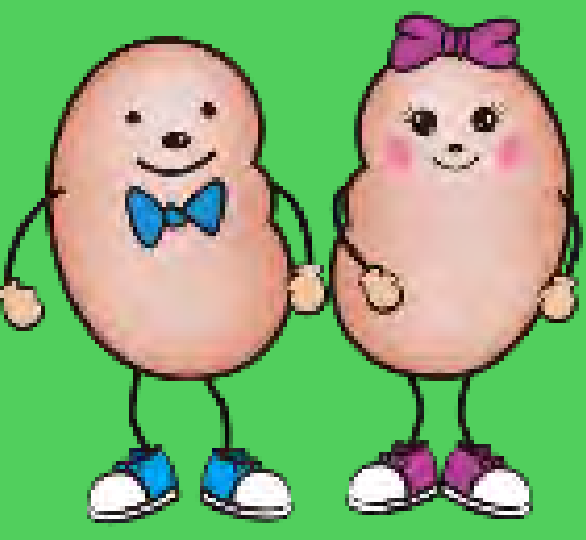


# 茨城県における臓器移植に関する意識調査 ～水戸地区の結果～



福田 佳奈子 公益財団法人いばらき腎臓財団  
大河内 信弘 公益財団法人いばらき腎臓財団  
筑波大学消化器外科・臓器移植外科



## 背景

茨城県における腎臓移植待機者数は332人(H26年12月末時点)である。一方、移植件数は年間0～5件で推移(H21～26)している。

当財団(IKF)は、茨城県民への臓器移植の普及啓発を主要事業の一つとしているが、腎臓提供件数が低迷している現状からは、従来の普及啓発活動では臓器移植に関する県民の意識啓発が十分でないと考えられる。

効果的な普及啓発活動のためには、啓発の対象となる県民の特徴を把握し、それに合致した手法を用いる必要がある。

## 公益財団法人いばらき腎臓財団の活動

1. 臓器移植の普及啓発
2. 腎臓移植待機者やドナー家族の支援
3. 慢性腎臓病予防対策の推進



教員や青少年への「いのちの学習会」



職域でのCKD予防講演会



広報誌

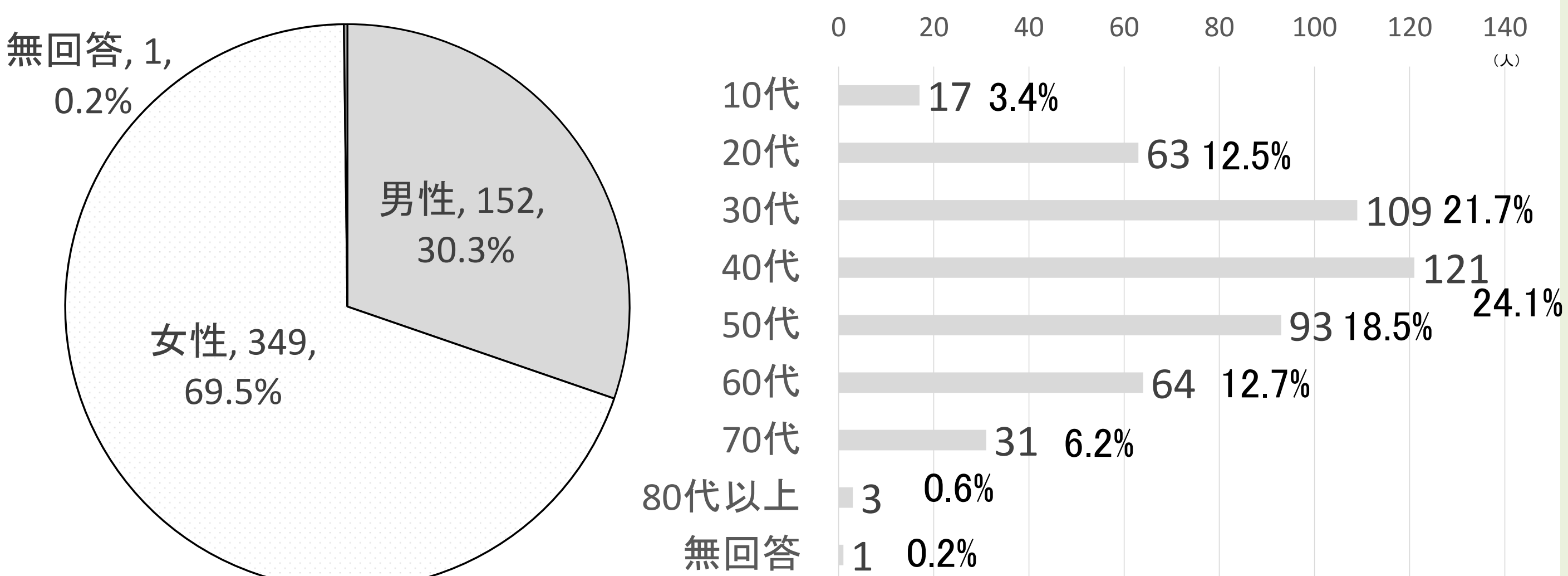
## 目的と方法

効果的な普及啓発活動に必要な、県民の「移植医療」に関する意識を把握することを目的として、2014年10月水戸市内で開催されたイベントの会場で無記名自記式アンケートを実施した。質問項目は、臓器移植や提供に関する項目、健診や慢性腎臓病に関する項目の全25問で構成した。質問の作成には、各分野の専門医のアドバイスを受けた。

## 結果

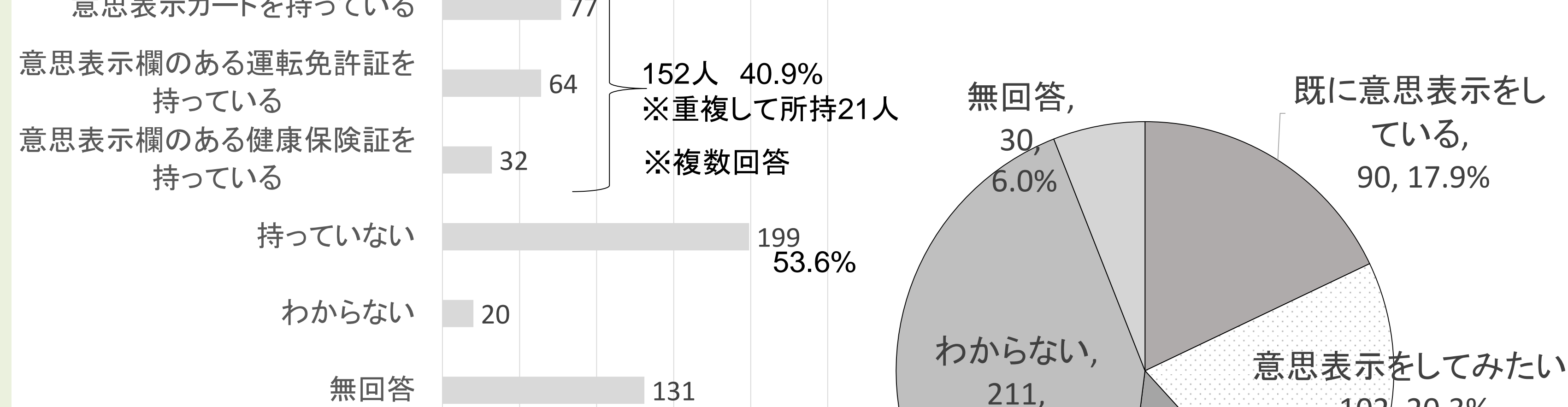
### 回答者の性・年代

回答者は502人であり、女性が69.5%を占め、40歳代が最も多く24.1%を占めた



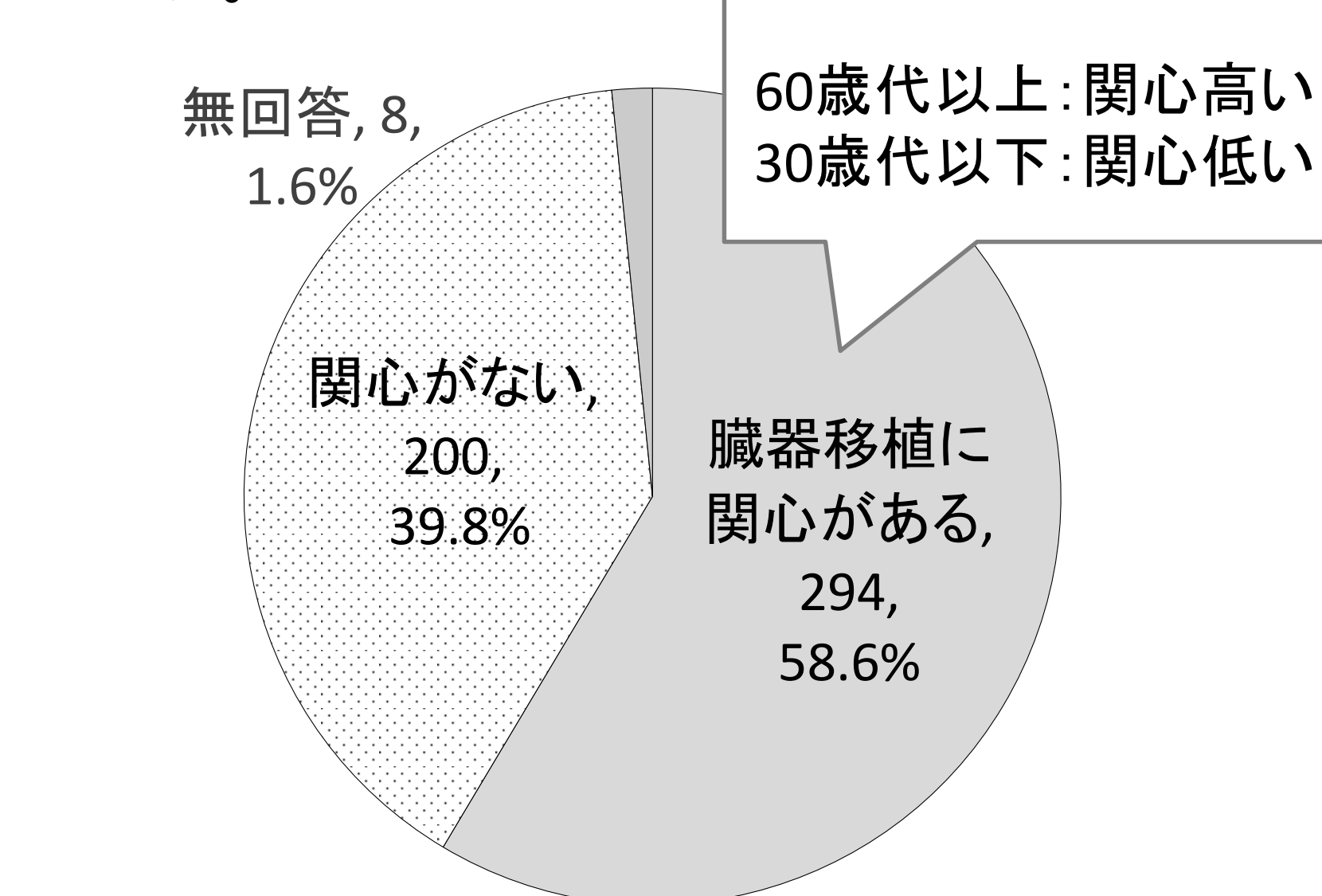
### 意思表示カードの所持・記入状況

40.9%が意思表示欄がある運転免許証等を所持していた。また、17.9%が意思を記入していた。(参考:平成25年度の内閣府調査12.6%)



### 臓器移植への関心

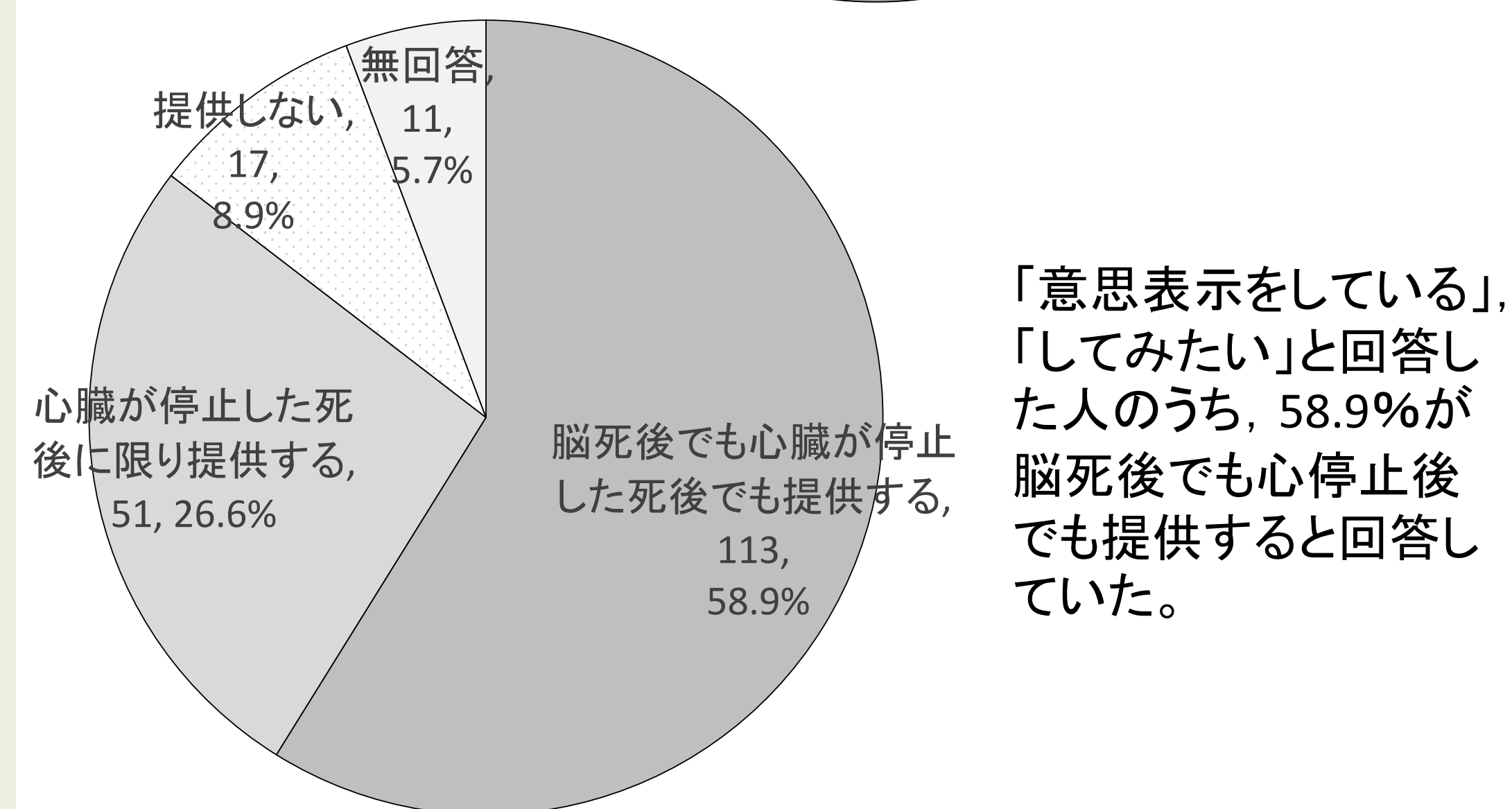
58.6%が臓器移植に関心があると回答し、60歳代以上が他の年代よりも関心が高く、30歳代以下で関心が低かった。



関心がある人は、「既に意思表示している(したい)」人が多く、また「家族と話しをしたことがある」、「移植医療の情報を十分に得ている」と認知していた。逆に、関心がない人は、意思表示をしたいとは思っておらず、情報も十分でないと認知していた。

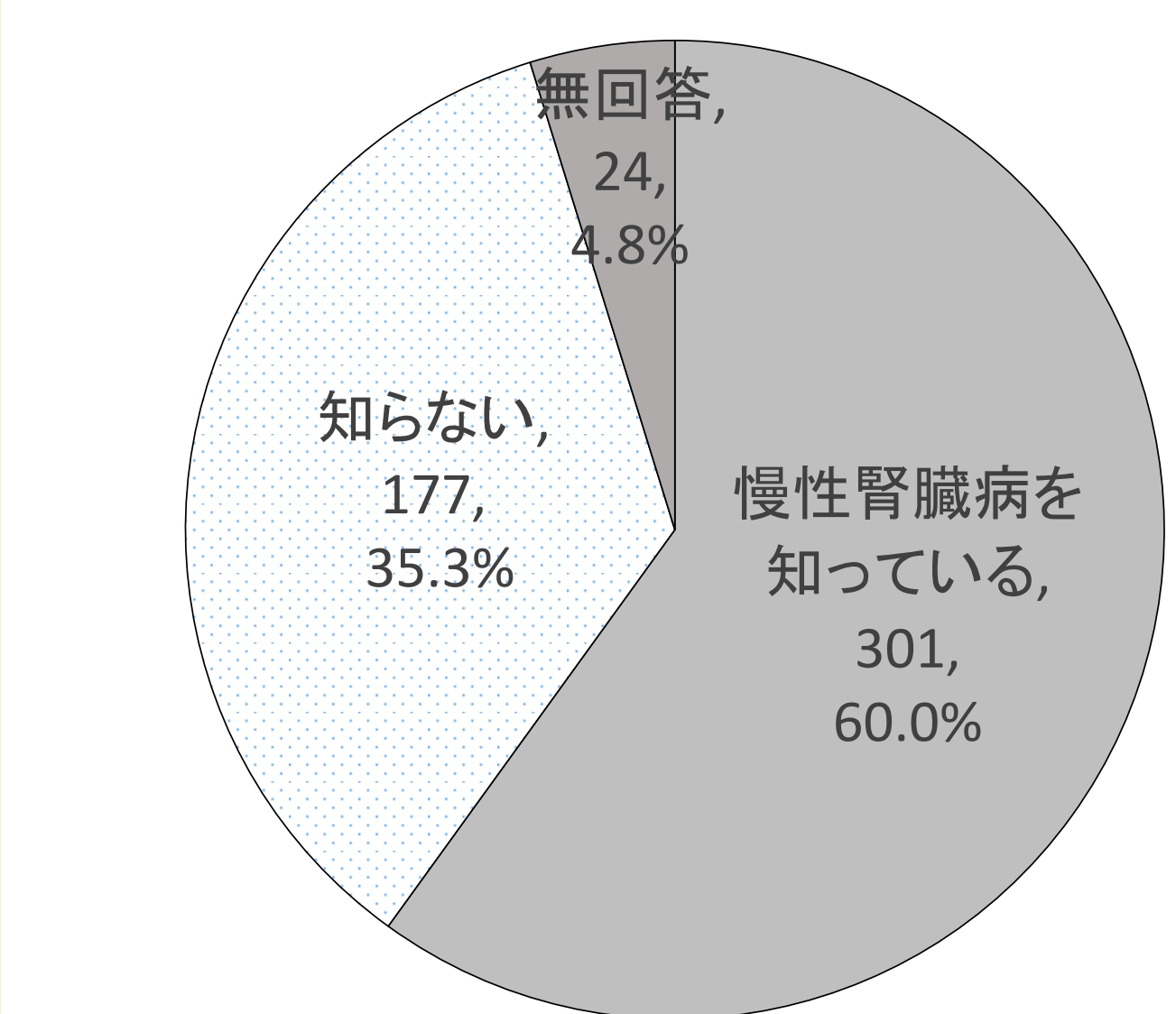
		臓器移植への関心	
		ある	ない
意思表示カード	表示(希望)あり	148*	128
	表示なし	43	147*
家族との話し	ある	160*	124
	ない	41	150
移植医療の情報を十分に得ているか	得ている	102*	173
	得ていない	49	139*

\* p<0.05



### 慢性腎臓病の認知度

慢性腎臓病を知っていると回答した人は60%であり、40歳代以上で知っていると回答した人が多く、30歳代以下では知らないという回答の人が多かった。同様に、慢性腎臓病が悪化すると腎不全になる可能性があり透析が必要となることを知っているかという質問に対しても、40歳代以上で知っていると回答した人が多く、30歳代以下で知らないという回答の人が多かった。慢性腎臓病予防の基本となる「減塩」については、60歳代以上で意識している人が多く、30歳代以下では意識していない人が多かった。



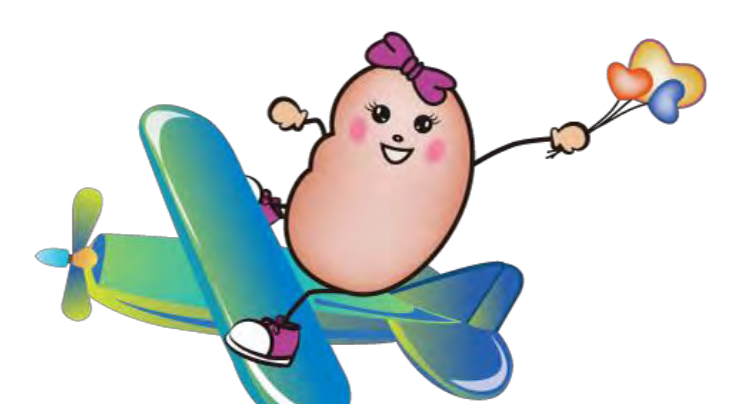
		30歳以下	40、50歳代	60歳以上
慢性腎臓病を知っているか	知っている	82	144*	74*
	知らない	99*	60	18
CKD悪化によって透析にいたる事	知っている	88	143*	75*
	知らない	92*	61	16
減塩を意識しているか	はい	61	111	68*
	いいえ	128*	103	30

\* p<0.05

慢性腎臓病を知っている人は、「臓器移植に関心がある」と回答した人が多く、慢性腎臓病を知らないという回答した人は、「臓器移植に関心がない」と回答した人が多かった。

		臓器移植への関心	
		ある	ない
慢性腎臓病を知っているか	知っている	210*	89
	知らない	71	101*

\* p<0.05



## 結語

茨城県民の臓器移植への関心度は全国調査の結果(H25内閣府調査57.8%)とほぼ同様であり、意思表示カードの記入率は全国(H25内閣府調査12.6%)より高かった。臓器移植に関心が高い人は、「60歳以上」「意思表示をしている」「家族と話し合ったことがある」「移植に関する情報を十分に得ていると認知している」さらに、「慢性腎臓病」を知っており、「減塩」を意識していた。一方で、30歳代以下は、臓器移植への関心が低く、慢性腎臓病の認知度も低かった。年代によって、移植への関心度等が異なることから、年代の特徴に応じた普及啓発活動の必要性が示唆された。